

令和4年度 延岡市立北方学園 学校関係者評価書

段階評価 4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

本年度の重点目標

学力の向上 心の教育の充実 健康・安全・体力の向上 夢・自信・誇りの育成

評価項目	評価指標	学校の自己評価コメント	自己評価	関係者評価	学校関係者評価コメント ○よい、●改善、◎意見、★質問
学力の向上	1 基礎・基本の徹底 諸調査の学力分析、4つのチェックポイントを基にした授業改善、学習評価の改善、補充指導の充実	○全国学力調査[国数(算)理]の結果、中学3年生は全教科、全国平均を上回ったが、小学6年生(全国学テ)及び小学5年生(みやざき学テ)は全教科下回った。 ○全職員で行う校内研究で、基礎的・基本的な学習の定着を図るために、学びの見届け等の手立てを取り、授業改善を図った。 ●諸学力調査問題の有効活用を図り、更なる学力向上に努める。 ●計画的に確認テストを実施し、その後、理解不足だった内容学びの見届け・学びの確認を徹底して行う。	3	3	○はげまし隊や教育関連機関等との連携を密にし、更なる学力の向上を期待している。 ○聞くだけの授業になりがちだが、タブレット端末を使用した授業に自発的な印象を受け、授業の楽しさを味わうことができた。 ○低学年からメディアとの関わりについて、家庭と連携が大切だと感じている。 ○読み聞かせ等、子供たちにも興味を持って取り組んでほしい。 ◎全学年で国語科下家庭学習の充実を図る。 ◎3年生後者の結果を期待する。 ◎保護者自身の満足度も高まっている。 ◎一人一人得意・不得意、目指す夢等の違いがある中で、多様な事・価値観を求め、められていく。 ★小学6年生は全教科平均以下であり、自己評価3の理由が知りたい。 ★指導力向上校外研修にも取り組むべきではないか。
	2 思考力・判断力・表現力の育成(主体的・対話的で深い学習の推進) 教科横断的な教育課程編成、問題解決的学習・体験的学習の充実、タブレットの活用、記述力・表現力強化対策の充実	○タブレット端末を使用したり、「問題解決的学習」を意識したりして、授業方法を工夫した。 ●言葉の使い方や気持ちを表すことを苦手とするなど、記述力・表現力に課題がある児童生徒に対して、タブレット端末の活用、推敲指導の重点化、学び合いの時間の確保、校外の作文投稿の利用等の手立てをとり、記述力・表現力を高める授業づくりを推進する。	2		
	3 指導力の向上 PDCAサイクルを活かした校内研修・相互授業参観、指導と評価の一体化推進	○教員の相互授業参観を行い、研修を深めることができた。 ●校内研修において今後、取り組むべき課題を明確にし、評価方法も含め、一層の授業改善を図る。	3		
	4 学習基盤の整備 小中実践事項の徹底、語彙力の育成、家庭学習ガイドラインの整備、読書活動の充実	○児童生徒の「図書まつり」等の委員会活動により、読書活動推進が図られた。 ●児童生徒の語彙力を高めるために、日記指導等、教科外の指導を強化する。 ●家庭学習に対する保護者の関心・協力の姿勢が二極化しており、それが参観日の出席率等に表れている。「家庭学習ガイドライン」を見直し、参観日等を活用して保護者に啓発を図る必要がある。	3		
心の教育の充実	1 社会性の涵養 あいさつ・返事・整理整頓・ルール・マナー指導の徹底、体験学習の充実・儀式的・文化的行事の充実	○体験活動や学校行事においてはコロナ禍の中、開催時期・方法を工夫したことで、地域の方々のご協力のもと体験的学習(町探検、果樹園見学、田植え、稲刈り、職場体験等)において、充実した取組を行うことができた。 ●学年が上がるにつれ、自ら進んで大きな声であいさつできる児童生徒、できない児童生徒がはっきり分かれる傾向がある。また、児童生徒同士、地域の方々へのあいさつが不十分であることから、教師による指導の徹底と率先垂範を徹底する必要がある。	2	3	○基本、9年間同じメンバーで生活と共にする上で、人間関係作りなど難しい指導なども含め、児童生徒の健全育成に感謝している。 ●あいさつは中学生も含めよくしてくれる印象がある反面、コロナ禍の影響で人と関わる機会が減ったせいもあって、あいさつするのを恥ずかしいと感じる児童生徒が増えたように感じる。また、これまで立ち止まってあいさつする光景に感動した、との報道もあったが最近は不十分に感じる。今後の指導の徹底をお願いしたい。 ○ほとんどの子どもが気持ちの良いあいさつができ、元気をもらっている。 ●言葉使いの悪い子が時々目立ち、気になる。 ○台風被害のボランティア活動をする姿に、地域としても勇気付けられた。地域住民との繋がりを大切に感じた子供たちも多かったのではないと思う。 ○友だちとトラブルになった時、自分たちで解決できない時には近くにいる大人に相談し、解決しようとする姿を何度も見かけた。 ◎自分の役割を理解し、行動できる人に成長してほしい。 ◎不登校は、本人の考えや心の在り方、家庭環境などの学校外の要因が大きいので、保護者との対話を重視し、寄り添うことが大切ではないか。
	2 自尊感情、人権意識の醸成 道徳教育・人権教育・特別支援教育の充実	○児童生徒間のトラブル等に対して、適宜適切な指導対応を行うことができた。 ○「校内支援推進委員会」を定期的実施し、児童生徒の実態把握と理解浸透を行った。また、特別支援学校の児童2名との居住地校交流を行い、インクルーシブ教育(障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組み)への理解が深まった。 ●道徳教育・人権教育に係る研修を深め、教師の人権感覚を一層向上させる必要がある。 ●今後も支援を要する児童の共通理解と個に応じた支援を充実させ、関係機関との連携を継続的に図る。	3		
	3 自己指導能力の育成 生徒指導ガイドラインの整備、児童会・生徒会活動の活性化・リーダー育成、勤労生産奉仕的行事の充実	○台風被害の際、児童生徒が自発的にボランティアを行うなど、高い自己指導能力を発揮した。 ●人間関係のトラブルを自己解決できない事案や自己決定力が無く、周りの意見に振り回され、トラブルになる事案等があった。生徒指導の3機能【自己決定の場を与える・自己存在感を与える・共感的な人間関係を育成する】による指導力の向上を図る。 ●QU検査の分析より、公的リーダーの育成についての課題が明らかになった。生徒会・児童会活動を活性化させ、意図的・計画的に公的リーダーを育成する必要がある。また、ボランティア活動を生徒会活動の重要な柱として位置づけ、継続的な活動として定着させる必要がある。	2		
	4 人間関係の基盤づくり 学級経営の充実、組織的ないじめ不登校対策、SC・関係団体との連携(チーム学校による生徒指導)、保護者との連携・協働、旅行宿泊的行事の充実	○「いじめ不登校対策委員会」を中心に、いじめの認知から解消まで、組織的に対応することができた。 ○関係機関やスクールカウンセラーとの連携し、組織的に課題解決に取り組んだ。 ●諸課題の解決については、保護者との連携・協働を強化する必要がある。 ●個々の教員の指導力を更に高め、学級経営を一層充実させる必要がある。	3		

健康・安全・体力の向上	1 体力や運動能力の向上 体育の授業・部活動・保健安全体育的行事の改善	<p>○新型コロナウイルス感染症拡大防止対応で、体育祭を半日で開催したが、所期の目的を十分達成することができた。</p> <p>●ここ数年、新型コロナウイルス感染症拡大による教育活動の制限により、生徒の体力の低下が見られる。</p> <p>●生徒数の減少に伴い、部活動の精選が必要な時期にきている。また、部活動は教育課程外の活動であり、教師のボランティアで行っていることや地域部活動への移行について、保護者への啓発を進める必要がある。</p>	3	<p>○コロナ禍の中、学校運営も大変だと思うが、このような中でも工夫を凝らし、改善を重ね指導されている姿勢に感謝している。(2名)</p> <p>○コロナ禍以前に戻すのではなく、今度どう実施していくかを試行錯誤されている様子が伝わる。</p> <p>◎ゲームの話題はよく聞かれるが、保護者の監督の下であれば問題ないのではないかと思う。</p> <p>●離合が難しいような狭い道路の真ん中や左右に分かれて下校する姿がある。</p> <p>○給食では北方の食材を使い、おいしい給食を提供して頂いて感謝している。</p> <p>◎給食の好き嫌い、食べる子食べない子の差がハッキリしている。</p> <p>○コロナ禍での家庭・学校生活に子供たちも対応できるようになった。更なる指導の徹底をお願いしたい。</p> <p>●学校のコロナ感染状況を地域住民が把握できないことが少し心配である。</p> <p>◎登下校における車での送迎が多い印象がある一方、雨の日でも自力で登校している子どももいる。自立できる大人に育てるためにも家庭で話をしてほしい。</p> <p>◎部活動の在り方については、保護者へ説明が必要ではないか。</p> <p>◎「性教育に関する教育」は外部講師による講話が必要ではないか。</p>
	2 望ましい生活習慣の醸成 立腰指導の徹底、保健指導の推進、性教育の推進	<p>○生活アンケートの結果から、ゲームやSNSの利用などが、学校での活動に影響していることが分かった。</p> <p>○「性に関する教育」を、各学年、計画的に実施し、児童・生徒の発達段階に応じた理解促進に繋がった。</p> <p>●授業を受ける姿勢が崩れている学年があるため、立腰指導の徹底を図る必要がある。</p> <p>●コロナ禍で得た知見を活かし、感染症や熱中症に対する対応を今後も徹底する。</p> <p>●学校・家庭・地域が共同で、児童生徒の健康課題に取り組むため、学校保健委員会の活動を活性化させる必要がある。</p>	3	
	3 安全教育の推進 安全点検・管理徹底、避難訓練・防災学習の充実、管理マニュアルの整備・充実、登下校指導の充実	<p>○天井板の落下や体育館の窓ガラスの破損など、事故等の対応を速やかに行うことができた。その後、「危機管理マニュアル」の見直しと整備を行うなど、安全点検の方法の改善・強化を図った。</p> <p>○避難訓練は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、DVD視聴で実施した。</p> <p>○地域見守り隊の協力で安全に登下校ができています。</p> <p>●安全点検の方法や危機管理体制を継続的に見直し、常時、改善を図る。</p> <p>●避難訓練や防災についての学習方法、内容を工夫し、改善を図る。</p>	3	
	4 食育の推進 栄養教諭の活用、給食指導の充実、アレルギー対応	<p>○栄養教諭による授業・支援や、各教科の授業内容と関連した献立作成、校内掲示板による視覚的啓発など、食育の充実により、残食が減少している等の成果も見られた。</p> <p>●栄養教諭によるリーダーシップを更に強化し、児童生徒への食育指導の推進を図る。</p>	4	
夢・自信・誇りの育成	1 キャリア教育の充実 総合的な学習の時間の充実、キャリア支援センターとの連携、キャリアパスポートの活用	<p>○総合的な学習の時間において、地域や関係団体の協力を得て、充実した体験活動を行うことができた。</p> <p>○キャリアパスポート(子ども達が小学校から高等学校までのキャリア教育に関わる活動について記入し記録を保管するファイル)を有効に活用することができた。</p> <p>●中3の「論理コミュニケーション」導入等に伴い、総合的な学習の時間のテーマと内容を全面的に見直し、探究活動の充実を図る。</p>	3	<p>○メールやホームページの更新をこまめに行っていたが、充実している。</p> <p>●保護者宛文書の最新版が確認しづらい。早急な対応をお願いしたい。</p> <p>◎学校生活での一番の主役は子供たちであり、それを育てているのは教育で、先生はそのサポーターである。先生任せにしないよう保護者に当事者意識をどうもたせるかが、大切だと思います。</p> <p>◎保護者・地域・学校の連携のためにも説明と情報伝達の工夫をお願いしたい。</p> <p>◎生徒間のトラブルやSNS上でのトラブル・いじめなど複雑化しており、慎重な対応をお願いしたい。</p> <p>◎施設内除草作業をPTA活動として年3回、市内の学校技術員に要請を行い、定期的実施していきたい。</p>
	2 保護者・地域との連携 CS発足に向けた準備、地域人材の活用と双方向の意見交換会(はげまし隊・社会人講師等)、地域支援コーディネーターの機能充実、PTA・地域諸団体等との連携、保護者との相談体制整備、接遇向上、対応記録の整備、積極的な情報発信(HP・報道等)	<p>○学校運営協議会発足に向けての準備委員会を実施し、次年度の方向性を探ることができた。</p> <p>○ホームページ等、学校からの情報発信をこまめに行うことができた。(ホームページのアクセス数:4月～現在まで130万アクセス)</p> <p>●ホームページのメニュー項目等の改善を図り、より一層、活用しやすいホームページ作りを目指す。また、報道機関も活用して、情報の発信に努める。</p> <p>●学校運営協議会を充実させ、学校と保護者・地域の相互理解を更に進める。</p>	3	
	3 教職員評価・学校評価の活用 PDCAサイクルによる学校の課題解決、学校組織力の強化、諸教育活動の目的の明確化と成果の検証	<p>○諸教育活動の起案及び運営にあたり、PDCAサイクル(計画→実行→評価→改善)を意識した取組を行い、組織的な課題解決を推進した。</p> <p>●教職員評価・学校評価を有効に活用し、小・中の連携を強化する。</p>	3	
	4 働き方改革・コンプライアンスの推進 校内推進委員会の設置、職員の意識改革推進、校務支援システムの活用、会議の精選と効率化、校務分掌の改善、報告・連絡・相談体制の整備、信用失墜の未然防止体制整備	<p>○①職員の意識改革②行動改革③時間改革を軸に、働き方改革を推進し、県の目標である「1ヶ月平均勤務外時間45時間以内」を達成することができた。</p> <p>●教職員の働き方に対する意識改革は進んでいるが、保護者からの不満の声もあった。(現在は理解を得ている。)保護者や地域への啓発を一層推進する必要がある。</p>	3	

[次年度の方向性についての校長所見] ※ 学校関係者評価書を、令和5年度の学校経営ビジョンに具体的に反映させていく。

・特に以下の項目については重点的に取り組みます。

- (1) 記述力・表現力を高める教育活動の推進 (2) あいさつの徹底・生徒指導の3機能を意識した教育活動の充実 (3) 学校運営協議会を柱とした地域との連携強化 (4) 働き方改革・社会に開かれた教育課程の一層の推進